

# 郷愁のわが

## キリマンジャロ

キリマンジャロ。キリマンジャロとは、われわれ観音の生徒にとっては一番親しみ深い校舎であるところだ。近い将来、この親しみ深い西館が破壊され、その跡に格技場を建築するという計画がある。そこで、インタビュアーを通じて一度わがキリマンジャロを見つめてみたい。

観音一古びこの西校舎の名の由来は、やはりキリマンジャロの氣候と等しく、夏暑く、冬寒く、とうとう冬が来たのであろう。しかし、名付け親や名付られた時はさだかでない。キリマンジャロについて御解説しあげると、本校西校舎という正式の名称を持ち、

外見は生糸の木造建築、お世辞にもりりとした校舎といえない。教室の中は荒れ放題だ。壁は落ちて穴まであいてる。そこに中には床がぬけている教室まである。また、雨が降ると左右も左もまた暗闇で電気が通らぬほどほろほろと音を立てて雨を叩き出す。隣のシラカバの葉を落す音が遠くまで響いてくる。それに二階が騒々しくする。二階には砂埃の雨。これではこの観音の誇りに堪えない。あまのこにこの環境だから。しかし、本校の生徒はこの悪環境の耐えながら、そして愚痴をばしながら勉強してきた。現在もしている。それなのに、なぜこのホロのキリマンジャロが愛され、かわいがられる。観音高校の名物にまでなっているのだらうか。そして、今、観音高校生は何をすべきなのだらうか。

まず、一年生にインタビューしてみた。

◎「最初、キリマンジャロには行ってみたい時、感じたこと何？」の質問に

「ホロ」

「暗いし、目が悪くなるものだ」「親しみがわ」「あつかが狭い」

など、例外があるにしても、ほとんどキリマンジャロの文句ばかり言っている。

同じ質問を二年生にするに

「本館からキリマンジャロを見た時は大きな倉庫かと思っただけで私の捜していた校舎だと思いません」

「まさかあそこで授業するとは思わなかった」

「別になし」

そして、三年生は、

「別に何も感じなかった」

「きたない、最初本館で試験を受けたので新館にはいるものと思っていたのだが、キリマンジャロだったので、びっくりした」

「裏切られたと思っただけ、ショックが大きかった。そして本館に早くはいられたかった。」「床がメリメリ、私はきれいなのに校舎はきたないと思った。またまた、古びた感じがした」

など、やはり一年の時はこの校舎を嫌うなどでも。

◎「それからこの校舎を壊す計画があるのだが……」

一年生

「余裕があるなら残してほしい。」「いいけどな。」「もったいない。」「観音名物だから残してほしい。」「やっぱり、この校舎で勉強した人は寂しいのじゃあ。」「惜しいけど後輩のためだからしかたがない。」「まず、一年生にインタビューしてみた。」「最初、キリマンジャロには行ってみたい時、感じたこと何？」の質問に

「観音博物館にしては。」「ハクセイのようにしては。」「三年生に聞いてみるに」

「絶対反対」

「高学年の思い出の場所だから残してほしい。」「学校名物だからいいや、こわくないで察する他の物に利用しない。」「また、一年生には「……」ってこの校舎を生活して「……」の質問には

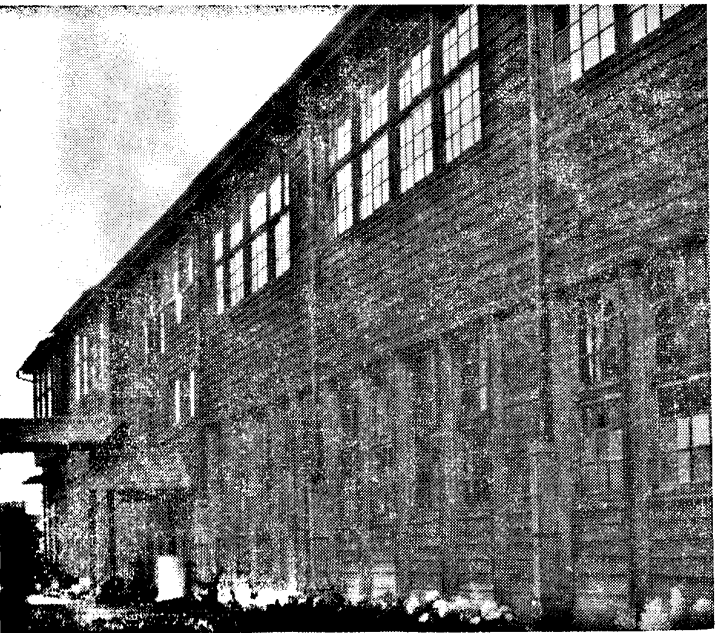
「思わない人じゃないか」「なってるわい」「慣れたらどこが一番いいんじゃないかしら。」「絶対いい。」「◎「二、三年には「もう一度キリマンジャロで勉強したい」の質問に

二年生

「二年でもなるなら入ってほしい。」「雨の日は絶対いい。」「天気のいい日だけな。」「たいてい。」「三年生

「やってみたら。」「一年だけやってみたら。」「春秋だけなら、親しみ深いから。」「なだんだだ。」「以上のインタビューを振り返ってみて感じられることは、キリマンジャロや学校の悪口ばかり言いつつながらも一年過ぐすととても親しく感じてもよくなっている。これは、キリマンジャロの歴史の深みから湧いてくる魅力に引かれるために、ホロのみも特性(同情)のために、そして、最大の理由としては、やはり一年間この校舎で勉強したというところがらうある種の愛着、あるいは郷愁といったものために、そのまま好き思いつくものなのだ。この郷愁は、今まで数千の卒業生、……

現在、今までの卒業生、……して現在の生徒の心にもなお残っていると思えば、このキリマンジャロの破壊の計画も、少しは心強くていいか。



### 編集後記

新聞部としての改新の作業は言えないのですが、どうにかしてこの観音新聞第五八号ができ上がりました。紙に「ローキ」にして飛ばすのめんどろですが、その前「チラ」でも目を通してください。公書・資源不足などの影響で紙不厚の叫ばれている昨今です。みなさん紙を大切にしてください。

県の総合体育大会には、大きな顔をして行かせていただきました。結局、新聞を出すのがのびのびになり、のせることができなくなりました。しかし、その分だけ新聞に力を尽くしたりもしています。前にも述べたとおり、紙にローキにする前に少しでも目を通すようにしてください。

県総体に因っては、本当にすみません。今度載せる時には、特報のものなものでありますから。紙にローキも結構ですが、折り紙への利用もあります。しかし、そうする前にこの観音新聞(何と呼んでも結構です)をじっくりと読んで下さい。文化祭に展示をしないから合せて新聞を出す予定でしたが、少数部員で原稿を作るためや、キャンプがしつかりしてないためこれだけになり本目発行という次第です。でも、新聞発行の二十日前くらいから顧問の先生のムチが強くなり部員は一回となって必要で作り出しました。(作り始めたではありません)